

社会科学習指導案

活動場所 本校舎3階 3年1組教室

生徒数 3年1組 男子18人 計32人
女子14人

指導者 教諭 夙無濱 正和

1 単元名 「国民生活と福祉」

2 単元について

本単元は、国民生活と福祉の向上を図るための国や地方公共団体が果たしている経済的な役割について学ぶ単元である。単元の内容は多岐に渡るが、社会資本の整備、環境の保全、社会保障の充実、消費者の保護、租税の意義と役割及び国民の納税の義務について理解させることを主なねらいとしている。その中の「社会保障の充実」については、日本国憲法第25条の精神に基づく社会保障制度の基本的な内容を理解させ、その一層の充実を図っていく必要があることを理解させるとともに、少子高齢社会など現代社会の特色を踏まえながら、これからの福祉社会の目指すべき方向について考えさせることを内容としている。「少子高齢社会」については先進国において見られる傾向であるが、特に日本では急速に進んでいる。1995年に65歳以上の高齢者人口の割合が14%を超え、2015年には4人に1人は高齢者という状態になると予想される一方、女性が子どもを産む数は急速に減り、いわゆる合計特殊出生率は現在では1.24となっている。このことは日本社会の大きな問題であり、例えば自分が将来十分な社会保障を受けるためには高い負担を強いられたり、逆に負担ができない場合は十分な社会保障を受けられなかったりということも今後考えられる。このような社会情勢の中で、将来を担う中学生が少子高齢社会について正しい知識を身に付け、これからの福祉についてどうあるべきか考えることは極めて重要である。

本学級の生徒は、公民的分野の学習についてはよく関心を示して授業に臨み、活動に対してはおおむね積極的に取り組んでいる。しかし、生徒一人一人が公民的分野の学習と日頃の生活とを結びつけて考えるまでに至らず、この分野の学習がただ単に基本的用語の理解や社会的事象の暗記に留まり、学習に苦手意識をもっている生徒も見られる。とりわけ本単元で学習する少子高齢社会に関していえば、ただ漠然と「高齢者の数が増え、逆に子どもの数が減りつつある」程度の認識しかもっていないものと思われる。

そこで、本単元の指導に当たっては、以下のことに留意したい。第一に高度で抽象的な内容や細かな事柄を網羅的に扱い、用語の解説に陥りがちになることをできるだけ避け、具体的な事例を通して生徒にとって身近な問題として捉えさせたい。このことで公民的分野の学習に対する興味・関心を喚起できるとともに、生涯にわたって学習しようとする態度を育てることにつながると思う。第二に生徒が主体的に追究活動に取り組み、自分の考えを深めていくような学習活動を展開したい。そのためには自分の考えだけでなく他者の立場にも立

つことを求めたい。そうすることで、客観的な批判力が育つとともに、将来の良識ある公民としての基礎となる公正な判断力が身につくものと考ええる。

3 単元の学習目標

- (1) 国や地方公共団体が果たしている経済的役割についての関心をもち、それらを意欲的に追究し、身近な問題として考えることができる。(社会的事象への関心・意欲・態度)
- (2) 少子高齢社会について様々な立場から多面的・多角的に考察し、望ましい社会の在り方について公正に判断することができる。(社会的な思考・判断)
- (3) 国民生活と福祉に関する様々な資料を収集、活用し、追究活動の過程や結果をまとめたり、発表したりすることができる。(資料活用の技能・表現)
- (4) 政府の経済活動や財政の仕組み、日本の社会保障制度など、国や地方公共団体が果たしている経済的な役割について理解し、その知識を身につけることができる。(社会的事象についての知識・理解)

4 単元の評価規準

学習活動における 具体的な評価規準	想定される生徒の学習状況と手だて	
	A	C
ア 社会的事象に対する関心・意欲・態度		
① 財政の役割について意欲的に調べ、税金の使われ方が公正であるかどうかに関心をもつことができる。	A 財政の役割について意欲的に調べ、財政政策や公債など具体的な項目について調べ、税金の使われ方について新聞やニュースなどに関心をもつ。	C 財政の役割について意欲的に調べ、税金の使われ方について関心をもつことができるよう資料の所在を示すなどして支援する。
② 課題追究プロセスカードに本時の振り返りや次時への課題を確実に記入することができる。	A 課題追究プロセスカードに、意欲的な振り返りや全体への問題提起となる課題などを記入できる。	C 課題追究プロセスカードに対して、具体的な記載をするように促すなどの支援をする。
イ 社会的な思考・判断		
① 少子高齢社会における様々な課題について多面的・多角的に考察することができる。	A 少子高齢社会における課題について異なった立場から、多面的・多角的に考察することができる。	C 少子高齢社会における課題について、社会保障費の増大など具体的な課題について多面的・多角的に捉え、考察することができるよう支援する。
② 高度経済成長を経て新たに生じた日本経済の課題について説明し、自分の考えを説明することができる。	A 高度経済成長を経て新たに生じた日本経済の課題について金融面、産業面、農業面などの項目に基づいて説明し、自分なりの考えをもつことができる。	C 高度経済成長を経て新たに生じた日本経済の課題について資料の所在を示すなどして説明し、自分の考えをもつことができるよう支援する。
ウ 資料活用能力・表現技能		
① 鹿児島市の財政を調べて、教育費と市税の割合をグラフにすることができる。	A 鹿児島市の財政を調べて、教育費と市税の割合をグラフにできるとともに作成したグラフから税金の使われ方について分かったことを複数まとめることができる。	C 鹿児島市の財政を調べて、教育費と市税の割合をグラフにすることができるよう支援する。
② 公害の防止と環境保全に関する情報を収集選択し、レポートにまとめることができる。	A 公害の防止と環境保全に関する情報をさまざまな手段を用いて収集選択し、レポートにまとめることができる。	C 公害の防止と環境保全に関する情報について所在を示すなどして収集選択させ、レポートにまとめることができるよう支援する。

エ 社会的現象についての知識・理解	
① 日本国憲法第二十五条の精神に基づく社会保障制度の基本的な考え方や内容を理解することができる。	A 日本国憲法第二十五条の精神に基づく社会保障制度の基本的な考え方や内容を諸外国における社会保障制度と比較し、共通点や相違点を説明することができる。 C 日本国憲法第二十五条の精神に基づく社会保障制度の基本的な考え方や内容を資料の所在を示すなどして理解することができるよう支援する。
② 租税の種類と納税の方法を理解するとともに、政府の仕事は国民の福祉を向上させることにあり、そのために税金が必要となることを理解する。	A 直接税と間接税の比率は国によって異なることやそれぞれの長所や短所について説明できるとともに、政府の仕事が国民の福祉を向上させることにあり、そのために税金が必要であることを具体例を示して説明できる。 C 直接税と間接税の違いや税金の主な種類を説明することができるよう支援する。

5 単元の指導計画

(1) 単元の学習及び評価計画

時間	学習の流れ	評価項目	評価方法
1	○ 単元全体のあらましを知る ○ 政府の仕事と租税	アー②, エー②	観察・KPC・ワークシート
2	○ 財政のはたらき	アー①・②, ウー①	観察・KPC・ワークシート
3	○ 社会保障と国民の福祉	アー②, イー①	観察・KPC・ワークシート
4～6 本時4	○ 【課題学習】少子高齢社会は君たちに何をもちよすのか	アー②, イー①	観察・KPC・ワークシート
7	○ 公害の防止と環境保全	アー②, ウー②	観察・KPC・ワークシート
8	○ 日本経済の課題 ○ 単元全体の学習をまとめる	アー②, イー②	観察・KPC・ワークシート

※ KPC…課題追究プロセスカード

(2) 課題学習「少子高齢社会は君たちに何をもちよすのか」学習の流れ [3時間]

時間	過程	学習の流れ
1 本時	○ 学習課題の把握	○ 「少子高齢社会は君たちに何をもちよすのか。」
	○ 予想	○ 少子高齢社会の問題点を予想する。
	○ 仮説の設定	○ 将来のライフプランと高齢者の実態とを合わせて、少子高齢社会の問題点を実感する。 ○ 「少子高齢社会によって○○○を引き起こす。」
2	○ 追究活動①	○ 仮説に基づき、調べ学習をする。
	○ 相互交流①	○ 仮説ごとにグループ分けをして、情報を共有する。 グループ1…介護の問題 グループ2…租税の問題 グループ3…雇用の問題 グループ4…年金の問題 グループ5…医療保険の問題 グループ6…その他の問題
3	○ 追究活動②	○ グループごとに調べ学習をする。
	○ 相互交流②	○ グループ編成を変え、新たなグループで情報を共有する。
	○ 最終判断	○ 「少子高齢社会は君たちに何をもちよすのか。」

6 本時の実際 (4/8)

(1) 題材名

「課題学習－少子高齢社会は君たちに何をもたらすのか－」

(2) 学習目標

ア 本単元の学習内容を踏まえ、少子高齢社会について多面的・多角的に理解することができる。

イ 学習課題に対して、関心や意欲をもって追究しようとする態度をもつことができる。

(3) 授業設計の視点

ア 追究意欲を引き出す課題の設定

生徒にとって身近な題材を取り上げ、「適切な課題を設けて行う学習」を行うことで、社会的事象に対する関心や意欲を喚起するとともに、単元の学習内容への理解を深めさせる。

イ 課題追究プロセスカードの活用

生徒が自らの変容を確かめる手だての一つとして、「課題追究プロセスカード」を活用する。これによって単元全体の見通しと各自の学習の振り返りを確実に行わせる。また、生徒一人一人の理解度を把握し、指導に生かす。

(4) 授業の展開

過程	時間	学習活動	指導上の留意点と評価 (●は主な発問と指示◆は評価項目)
つかむ	10分	1 日本における少子化・高齢化の進行を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ● 少子高齢社会とはどんな社会か。 ● 日本における少子化・高齢化はどう進んでいるか。 ○ これまでの既習事項を想起させる。 ○ 資料を基にして、諸外国に比べて少子高齢化が著しく早く進行していることに気づかせる。
		2 学習課題を確認する。	少子高齢社会は君たちに何をもたらすのか
追究する	5分	3 学習課題に対する各自の予想を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> ● 少子高齢社会は君たちにどんな影響を及ぼすのだろうか。 ○ 自由な雰囲気の中で発言させる。 ○ 事前のアンケート結果を提示し、学級全体の意識やさまざまな考えを理解させる。
		4 課題学習の進め方を理解する。 5 ライフプランを作成する。	<ul style="list-style-type: none"> ● これからの学習の進め方を把握しよう。 ○ 学習の進め方を明示することで、課題学習としての意欲をもたせる。 ● あなた自身の人生設計を考えよう。 ○ モデルとなるライフプランと各自のライフプランを比較させる。

追 究 す る の 設	仮 説 の 分	15	<p>6 少子高齢社会の問題点を考える。</p> <p>7 学習課題に対する仮説を設定する。</p>	<p>○ 自分の将来を考えさせることで、少子高齢社会の到来を実感させる。</p> <p>● 少子高齢社会は今後どのような問題を引き起こすのだろうか。</p> <p>○ 各自のライフプランを基に考えさせる。</p> <p>○ 個で考えさせた後、グループの形態をつくり話し合わせる。</p> <p>〈視点ア〉 追究意欲を引き出す課題の設定</p> <p>● 少子高齢社会にとっての問題点は何だろうか。</p> <p>○ 仮説を立てさせることによって、各自の追究活動を焦点化させる。</p> <p>○ 仮説ごとにグループをつくらせる。 グループ1…介護 グループ2…税金 グループ3…掃除 グループ4…年金 グループ5…医療保険 グループ6…その他</p> <p>◆ 少子高齢社会における様々な課題について多面的・多角的に考察することができる。</p>
		5	<p>8 課題追究プロセスカードに記入する。</p> <p>9 次時の予告を聞く。</p>	<p>○ 本時の学習を振り返らせるとともに、回収し生徒の理解度を把握する材料とする。</p> <p>◆ 課題追究プロセスカードに本時の振り返りや次時の課題を記入することができる。</p> <p>〈視点イ〉 課題追究プロセスカードの活用</p> <p>○ 次時の追究活動に向けての意欲を喚起する。</p>